

スポーツ振興について

2025年10月23日
県民生活部文化スポーツ局
スポーツ振興課

*HYOGO with
SPORTS*



- | | |
|-------------------------|-----|
| 1 . スポーツによる地域創生 | P 3 |
| 2 . 神戸マラソン2025 | P 5 |
| 3 . ワールドマスターズゲームズ2027関西 | P 7 |
| 4 . スポーツ人材育成と環境整備 | P 9 |
| 5 . スポーツコミュニケーションの創設へ | P12 |

1. スポーツによる地域創生

(1) プロスポーツ連携による地域共創の推進

県内9つのプロスポーツクラブ（神戸ストークス、ヴィッセル神戸、コベルコ神戸スティーラーズ、SEKISUIチャレンジャーズ、FC BASARA HYOGO、INAC神戸レオネッサ、ヴィクトリーナ姫路、ASパリマアルビオン、アストライア）との包括連携協定に基づき、県民とクラブが一体となったスポーツ文化の定着を推進。

観戦招待や応援デー、大学・企業・地域と連携した取組を展開し、子どもたちが一流アスリートの技や精神に触れる機会を創出。スポーツを通じた地域のにぎわいと誇りの醸成を図る。



神戸ストークスのホームに県内小中高生を無料招待。GLION ARENA KOBE等での観戦体験を通じ、累計6万人超が参加。次世代ファン層の拡大に寄与



2025年4月6日、国立競技場でのヴィッセル神戸 vs アルビレックス新潟戦にあわせ、兵庫の特産品販売・観光PRを実施。県の魅力を全国に発信



ヴィクトリーナ姫路を題材に大学生が参加するスポーツビジネスコンテストを開催。若者の発想を地域クラブ振興に生かす取組



FC BASARA HYOGOと連携し、元日本代表・岡崎慎司氏によるサッカー教室を開催。小中高生300人が参加し、地域スポーツ環境を強化



2025年1月19日、コベルコ神戸スティーラーズの試合で「県民応援デー」を実施。観戦企画や震災パネル展示を通じ、記憶の継承と絆の再生を図る



神戸ストークスと連携し、県内各地で「ストークスキャラバン」を展開。バスケット・チア教室に延べ2,000人が参加。地域密着の普及活動として定着

〔プロスポーツクラブと連携した地域活性化事業 60,000千円〔財源：ふるさと納税〕〕

(2) クラブネットワークによる連携強化

県内プロスポーツクラブの横の連携を強化するため、「プロスポーツクラブ等連携会議」を中心に、協働や情報共有をコーディネート。

また、複数クラブによる合同イベントや展示を支援し、競技の枠を越えた共創を促進。ファン層の拡大と県民のスポーツ参加意欲の向上を図る。



2025年6月26日、「第2回プロスポーツクラブ等連携ミーティング」を開催。約10クラブが参加し、横断的PRや子どもの運動離れ対策などを協議



2025年5月17日、ノエビアスタジアム神戸でヴィッセル神戸とヴィクトリーナ姫路が連携し、天皇杯・皇后杯の同時展示イベントを実施。県内外の来場者で賑わい、兵庫の誇りを発信

つながる力、広がる舞台

1. スポーツによる地域創生

(3) スポーツでつなぐ交流とぎわいの創出

県内各地で、スポーツを通じた人と地域の交流を促進。都市の活力と自然の魅力を融合させ、国内外の人々が集う多彩なイベントを展開している。ネイチャースポーツやアーバンスポーツなど、新しいスタイルの体験を通じて、地域のにぎわいと国際的なつながりの拡大を図る。



昨年に続き、2025年10月18日・19日に「しうそう氷ノ山 SEA TO SUMMIT 2025」を開催。自然と共生する体験型イベントとして定着し、アウトドアを通じた地域交流と交流人口の拡大を促進



2025年7月19日、姫路城前・大手前公園で3x3大会を開催。歴史的景観とスポーツを融合し、街の中心からスポーツの熱気を発信



2025年6月28、29日、三木市でU-11年代のジュニアサッカーチームによる国際大会「UTAMARO GLOBAL CUP」を開催。ユベントスFCなど海外の強豪チームが参加し、子どもたちがサッカーを通じて国際交流を深めた



2025年9月27~29日、大阪・関西万博「関西パビリオン多目的エリア」でサイクルツーリズムPRを実施。大鳴門橋自転車道やサイクルスポットのVR体験などを通じて、瀬戸内エリアをつなぐ広域連携の魅力を発信した



(4) 世界を惹きつけるスポーツの舞台

世界規模の大会や代表戦など、大型スポーツイベントの誘致を積極的に推進。2025年7月12日、ノエビアスタジアム神戸でラグビー日本代表がウェールズ代表と対戦。試合前には、県立西宮高校音楽科の生徒が両国国歌を歌唱・演奏し、スタジアムに感動の調べを響かせた。会場ではウェールズ文化の紹介ブースも設けられ、多くの来場者で賑わった。国際試合を通じて観光誘客や経済活性化、文化交流を促し、兵庫が世界に開かれたスポーツの舞台として存在感を高めた。



5月30日、西宮市立生瀬小で元日本代表の守屋篤さん・正面健司さんが指導。児童が実技でラグビーを体験



6月23日、元代表主将の廣瀬俊朗さんが県立西宮高を訪問。国歌演奏を担う生徒を激励



6月25日、県立西宮高でウェールズゆかりの講師が特別授業。国歌の発音や背景を学習

2. 神戸マラソン2025



(1) 大会の概要

開催日：2025年11月16日（日）

9:00 第1ウェーブ / 9:15 第2ウェーブスタート / 16:00 終了

定員：フルマラソン 20,000人、リレーラン 150組（300人）

主催：兵庫県・神戸市・一般社団法人兵庫陸上競技協会

企画運営：神戸マラソン実行委員会

2025大会は、阪神・淡路大震災から30年の節目に開催される特別な大会。「感謝と友情」をテーマに、約2万人のランナーが復興の街・神戸を駆け抜ける。

〔神戸マラソン2025の開催：88,883千円〕

新

コースにより魅力向上

感謝と友情 *Thanks & Friendship*

被災から復興、そして現在にいたるまで、
手を差し伸べていただいた国内外の人々や地域へ感謝の気持ちを現したい。

(2) 震災30年、語り継ぐ大会へ

神戸マラソンは、「感謝と友情」を大会テーマに掲げ、震災からの復興の軌跡を世界に発信し、支えてくださった方々への感謝を現す大会として開催。2025年は震災30年の節目として、記憶を風化させることなく、語り継ぐ大会をめざす。



大会に参加する人たちが、震災復興の象徴「ひまわり」をイメージした黄色の手袋を着用し、手を掲げるセレモニーを実施。神戸マラソンEXPO2025では、人と防災未来センターによる「震災30年記念展示」を行い、震災の教訓を国内外に発信する

2. 神戸マラソン2025

(3) 新コースでより魅力ある大会へ

コースを西へ延伸し、明石市大蔵海岸で折り返し、神戸ハーバーランドでフィニッシュする新コースで実施。明石海峡大橋や淡路島、神戸ポートタワーなどの眺望を活かした魅力あるコース。

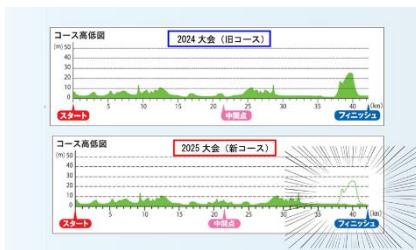
終盤の大きな高低差を解消し、よりフラットで走りやすいコースを実現。MGCシリーズとして、国内外の有力ランナーを招聘。



明石市大蔵海岸で折り返す新コース。明石海峡大橋と淡路島を望む絶景ポイントがランナーの気持ちを高める



神戸を象徴する景観と、商業施設が立ち並び多くの人が賑わう神戸ハーバーランドで、フィニッシュを迎える



(4) 応募者数増、過去最高の海外ランナー

フルマラソン応募者数：49,142人（前年比+8,202人／約2.5倍）

リレーラン応募者数：512組（1,024人／約3.4倍）

海外エントリー：2,592人（前年比+855人／過去最高）

3. ワールドマスターズゲームズ2027関西

(1) 世界が舞台、生涯スポーツの祭典



世界最大級の生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ（WMG）」が、2027年に関西で開催される。1985年の第1回トロント大会以来、4年ごとに開催されてきた国際総合競技大会であり、30歳以上であれば誰でも参加可能。二度の延期を経て、いよいよ2027年5月14日から30日にかけて、関西一円で開催される。

〔名称〕ワールドマスターズゲームズ2027関西
 〔期間〕2027年5月14日～30日
 〔主催〕（公財）ワールドマスターズゲームズ
 2021関西組織委員会
 〔競技数〕公式35競技・59種目
 〔構成自治体〕13府県市
 〔目標参加者数〕50,000人



(2) 兵庫から発信、多彩な競技の舞台

兵庫県実行委員会では、市町・競技団体と連携し、公式6競技（オリエンテーリング〔フォレスト〕、水球、テコンドー、テニス、ビーチバレー、クレー射撃）を実施予定。また、ノルディックウォーキング、ペタンクなど6競技をオープン競技として開催。さらに、神戸市実行委員会により、硬式野球・卓球・バスケットボールなども実施予定。県内各地で、年齢や競技レベルを超えて楽しめる多彩な競技が展開される。

オリエンテーリング
 (養父市・神河町・香美町)



テニス
 (三木市・加西市)



クレー射撃
 (岡山市)



水球
 (尼崎市)



テコンドー
 (姫路市)



ビーチバレー・ボール
 (南あわじ市)



大会への歩み、本格始動

3. ワールドマスターズゲームズ2027関西

(3) 準備加速、連携強化の一年

大会まで2年を切り、兵庫県では大会運営体制の強化に着手。関西組織委員会や市町、競技団体と連携し、会場や運営体制等の調整を着実に進めている。また、総合計画・競技内容の公表に向け、府県域を越えた協働を推進。県民参加の促進や観光との連動を図りながら、広報発信を強化していく。兵庫が大会成功をリードすべく、行政・競技団体・経済界が一体となり、準備を進めている。



2025年5月16～18日、斎藤知事が台湾の台北市・新北市で開催されたWMG2025を視察。台北市長との意見交換や関西観光のPRを行うとともに、現地メディアや旅行関係者を対象に次回関西大会への参加を呼びかけ。アジア圏からの参加拡大に向けた国際的プロモーションを展開



2025年7月28日、6年ぶりに開催された「WMG 2021関西兵庫県実行委員会総会」を開催。行政、競技団体、経済界が一堂に会し、これまでの取組を確認するとともに、開催準備の方向性を共有。大会成功に向け、県内外の関係者が一体となって取り組む姿勢を改めて確認する機会となった



大阪・関西万博会場でのPRブース出展をはじめ、各競技団体が主催する大会・イベントでの広報支援を展開し、WMG開催への関心を向上。また、各種競技団体や市町と連携し、「ひょうご生涯スポーツ大会」や「県民ふれあい大会（11月24日予定）」などを共同開催。スポーツを通じた交流の輪を広げ、県民参加の機会拡充と大会機運の醸成を図っている

〔WMG2027関西の開催準備：9,398千円〕



WORLD
MASTERS
GAMES
2027 KANSAI
JAPAN HYOGO



大会マスコット
スフラ
~Sport for Life~

(4) 本番へ向け、歩みを加速

大会の開幕が迫る中、県内でも開催準備がいよいよ本格化。競技運営体制の整備、ボランティア育成、機運醸成イベントの展開など、多様な主体が一丸となって成功に向けた準備を進める。

今後のスケジュール（予定）

2025年11月	大会総合計画・競技実施内容の公表
2026年1月頃	アーリーエントリー受付開始
3月頃	一般エントリー受付開始
2027年2月	エントリー受付終了
5月14日	ワールドマスターズゲームズ2027関西 開幕

4. スポーツ人材育成と環境整備

兵庫発、
世界行き、
あなたの才能が
世界を変える。
★HYOGO STAR
PROJECT 始動



(1) HYOGO STAR PROJECT — 次代を担う人材育成

従前の「ひょうごジュニアスポーツアカデミー」を発展的に継承し、2025年度から新たに「HYOGO STAR PROJECT」を始動。

身体能力の開発・育成に加え、思考力・協調性・リーダーシップなど知的能力の開発・育成にも取り組み、未来社会で求められる人間力の育成を目指す。県内外の指導者・専門家による理論と実技の融合的なプログラムを通じ、次代のスターアスリートを育てる兵庫県の重点プロジェクトである。



2回にわたる選考会を実施。身体能力に加え、考える力や意欲、将来性を重視し、多面的な視点で選考を実施



2025年10月4日に開講。思考力と運動能力を同時に鍛えるプログラムに挑戦。初回から真剣な表情で取り組む姿が見られた



(2) 乳幼児期からの運動習慣づくり

乳幼児期の発達段階に合わせた基礎的な動きの力を育むため、2025年度から実践事業を本格化。保育者対象のアンケート調査結果を基に運動あそびを推進。家庭・地域・保育現場が協力し、「子どもたちが運動・スポーツを好きになる環境づくり」を進めている。

〔乳幼児の運動習慣づくり推進事業 272千円〕



(3) トップアスリート・クラブによる指導者派遣

阪神タイガース、ヴィッセル神戸、ヴィクトリーナ姫路などのプロクラブや、陸上の朝原宣治氏らトップアスリートと連携し、県内各地で指導者研修を展開。地域スポーツクラブや中学校の指導者を対象に、競技技術や育成の考え方を共有し、現場の指導力向上を図る。延べ2,500人を超える参加を通じ、地域に根ざした指導者ネットワークの強化につなげている。

4. スポーツ人材育成と環境整備

(4) 国民スポーツ大会へ選手派遣

2025年9月に開催された第79回国民スポーツ大会「わたSHIGA輝く国スポ」に、選手・監督・役員あわせて延べ533人の兵庫県選手団を派遣。

滋賀県全域を舞台に、陸上競技や水泳、バスケットボールなど34競技が行われ、「湖国の感動、未来へつなぐ」をテーマに全国の代表選手が熱戦を繰り広げた。

兵庫県選手団は、粘り強さと結束力を武器に健闘し、各競技で存在感を發揮。今後も、競技力向上と次世代アスリートの育成を両輪に、全国の舞台で輝く“チーム兵庫”の形成を目指す。

第79回国民スポーツ大会「わたSHIGA輝く国スポ」



〔大会概要〕

会期前1回目：2025年9月6日～15日
会期前2回目：2025年9月21日～25日
本会期：2025年9月28日～10月8日

〔国民スポーツ大会兵庫県選手団派遣費 46,293千円〕



9月28日、わたSHIGA輝く国スポの総合開会式が滋賀県彦根市・平和堂HATOスタジアムで開催。自由で活気ある雰囲気の中、選手たちが笑顔で入場



なぎなた競技（滋賀県彦根市）で成年女子演技の部において、兵庫県が2年連続・通算8回目の優勝を達成



(5) スーパーアスリートへの支援

兵庫県と県スポーツ協会が協働し、国際舞台での活躍が期待されるアスリートを重点的に支援。国内外での競技活動や遠征に必要な環境を整え、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう後押ししている。

飛込の玉井陸斗選手やフェンシングの西岡瞳選手など、世界に挑むアスリートを支え、兵庫から世界へ羽ばたく人材育成を進めている。

〔スーパーアスリート事業 13,320千円〕

(6) HYOGO SPORTS AWARD — 兵庫のスポーツを讃える日 —



2025年2月14日、「HYOGO SPORTS AWARD」を初開催。

年間を通じて県内スポーツ界で活躍した個人・団体を表彰する新たなセレモニーとして実施。

映像・音楽演出を融合した舞台で、県民とともにアスリートの努力と栄光を讃える一日となつた。

4. スポーツ人材育成と環境整備

(7) スポーツ施設の運営と魅力発信

2024年度に教育委員会からの移管を受け、スポーツ振興課が6施設を所管。指定管理者制度のもとで運営の効率化とサービス向上を図り、地域とともに活きる開かれた施設づくりを推進。

2025年度は神戸常盤アリーナ、神戸西テニスコート、武道館の3施設が次期指定管理公募対象であり、持続可能な運営体制の再構築を進めている。

「②利用者数」は、2024年度実績
「⑤指定管理料」は、2025年度当初予算額



神戸常盤アリーナ（文化体育館）

神戸市長田区の中心に位置する多目的アリーナ。バスケットボールやバレーボールなどの公式戦に加え、地域イベントの拠点として親しまれる施設。①所在地：神戸市長田区／②利用者数：522,158人／③指定期間：2021.4.1～2026.3.31／④指定管理者：兵庫県立文化体育館ファシリティ共同体／⑤指定管理料：134,529千円



神戸西テニスコート

神戸市西区にある砂入り人工芝10面を備えたテニス施設。大会・教室を通じて世代を超えた交流を生むスポーツ拠点。①所在地：神戸市西区／②利用者数：62,630人／③指定期間：2021.4.1～2026.3.31／④指定管理者：株式会社ITC／⑤指定管理料：▲5,584千円（還付金）



Life Partner Arena (総合体育館)

西宮市にある県内最大級の屋内スポーツ拠点。全国大会や合宿、イベントに幅広く活用され、地域スポーツの中核として多世代に親しまれている。①所在地：西宮市／②利用者数：478,384人／③指定期間：2025.4.1～2030.3.31／④指定管理者：ひょうごスポーツライフルグループ／⑤指定管理料：94,500千円



海洋体育館（芦屋マリンセンター）

芦屋市の海辺に立地し、ヨット・SUPなどの体験を通して海洋スポーツの魅力と学びを発信する拠点。①所在地：芦屋市／②利用者数：44,419人／③指定期間：2025.4.1～2030.3.31／④指定管理者：（公財）兵庫県スポーツ協会／⑤指定管理料：35,277千円



弓道場

全国大会開催実績を有する本格弓道場。競技者の練習や学生指導に活用され、伝統文化と礼節の継承に貢献。①所在地：明石市／②利用者数：31,808人／③指定期間：2025.4.1～2026.3.31／④指定管理者：（公財）兵庫県スポーツ協会／⑤指定管理料：8,666千円



武道館

柔道・剣道など各種武道大会を開催。青少年の心身育成と競技力向上を支える、県内を代表する武道拠点。①所在地：姫路市／②利用者数：439,942人／③指定期間：2021.4.1～2026.3.31／④指定管理者：（公財）兵庫県スポーツ協会武道館グループ／⑤指定管理料：141,878千円

スポーツが結ぶ共創の輪

(1) スポーツコミッショング設立に向けた取組

2024年3月にHYOGOスポーツ新展開検討委員会から提案された「HYOGOスポーツエコシステム」構想を受け、県ではスポーツコミッショングの創設に向けた準備を本格化。

スポーツ庁が推進する「地域スポーツコミッショング登録制度」への参加を視野に、行政・企業・大学・メディア・プロスポーツクラブが連携する“共創型プラットフォーム”的構築を進めている。

兵庫は、野球・サッカー・ラグビーなど多様なトップクラブが集積し、山・海・都市が調和するスポーツ資源に恵まれた地域。これらを最大限に生かし、スポーツを軸とした地域活性化と経済循環の実現を目指す。

※地域スポーツコミッショングとは：行政・観光・経済・スポーツ団体などが一体となり、スポーツツーリズム等を通じて地域振興を推進する組織

〔スポーツコミッショング設立準備 1,500千円〕

(2) アスリートのネクストキャリア採用

スポーツコミッショングの理念である「支える人材の循環」を体現する取組として、2025年9月、元なでしこリーガーの巴月優希さんを県職員（ネクストキャリア採用第1号）として採用。

ASハリマアルビオンで活躍した経験を生かし、地域スポーツの振興や女子アスリートのキャリア支援に携わっていく。

今後は、アスリートのセカンドキャリア・デュアルキャリア支援を、スポーツコミッショングの中核的機能として発展させていく。



5. スポーツコミッショングの創設へ



(3) スポーツ地域価値 共創シンポジウム

2025年9月19日、アンカー神戸で「スポーツ地域価値 共創シンポジウム」を開催。プロスポーツクラブ経営者、大学研究者、地域メディア、行政など多様な登壇者が、スポーツの「稼ぐ力」と「地域価値」をテーマに議論を展開。会場は満席となり、報道でも注目を集め、兵庫版スポーツコミッショング創設への第一歩となつた。



(4) 第2期スポーツ推進計画の一部改正

「第2期兵庫県スポーツ推進計画」（2022～2033年度）を、スポーツ基本法改正やスポーツ担当の所管移管、企業連携の拡大等を踏まえ、令和7年度に一部改正を予定。新たに政策目標5「スポーツで地域にぎわいを生み出す」を追加し、行政・企業・大学・団体が連携するスポーツコミッショング構築を明記。また、アーバンスポーツ・eスポーツの推進、インテグリティ強化を盛り込み、スポーツを「健康・にぎわい・誇り」を生む社会の力として再定義。2026年4月の施行を目指す。

〔スポーツ推進審議会開催費 179千円〕

参考) 第2期兵庫県スポーツ推進計画の一部改正について

■ 計画の概要

「第2期兵庫県スポーツ推進計画」(2022~2031年度)は、県のスポーツ施策の基本方針と方向性を示す10か年計画です。

当初は2026年度を中間期として見直しを予定していましたが、2025年のスポーツ基本法改正や、国の第3期スポーツ基本計画(2022~2026年度)の動向、さらに県の体制整備や新たなスポーツ潮流を踏まえ、1年前倒しで一部改正を行います。



■ 現行の4つの政策目標

計画の基本理念は、「する・みる・ささえるスポーツ」への参画を通じて、躍動する兵庫の実現をめざすものです。

この理念のもと、次の4つの政策目標を掲げています。

1 子ども・ユーススポーツの推進

子どもの体力向上や、次代のアスリート育成を支援

2 生涯スポーツの推進

誰もが年齢や地域を問わずスポーツを楽しめる環境づくり

3 競技スポーツの推進

全国・国際大会で活躍できる競技力の強化

4 障害者スポーツの推進

共生社会の実現に向けたインクルーシブな環境整備



■ 改正のポイント

今回一部改正では、これまでの4つの政策目標を維持しつつ、新たに5つ目として、次の内容を追加します。

5 スポーツで地域にぎわいを生み出す

スポーツの交流力・発信力を生かし、人と地域をつなぎ直すことで、地域経済や観光の活性化、地域の誇りとにぎわいの創出をめざします。

この新しい目標の中で、行政・企業・大学・競技団体などが連携して推進する「スポーツコミッショニングの構築」を明確に位置づけます。

■ 改正の背景と考え方

○国の動向：2025年のスポーツ基本法改正及び第3期スポーツ基本計画(2022~2026年度)

○県の体制整備：2023年度にスポーツ行政を教育委員会から知事部局へ移管

○新たな潮流：プロスポーツクラブとの連携、地域スポーツコミッショニング創設の動き

これらを踏まえ、計画の理念と構成は維持しながら、社会の変化に即した重点施策を補強。スポーツを「健康・にぎわい・誇り」を生み出す社会の力として再定義します。また、アーバンスポーツ・eスポーツなどの新しい分野を計画に明記するとともに、スポーツ・インテグリティ(公正性)とガバナンス強化の方向性を反映し、時代の変化に的確に対応した実践的な計画とします。

■ スケジュール

2025年9月30日	兵庫県スポーツ推進審議会（改正案提示・議論）
11月18日	兵庫県スポーツ推進審議会（修正案審議・答申）
12月上旬	パブリックコメント実施
2026年2月	県議会への改正案上程